



福岡医発第 2333 号 (地)

令和 3 年 11 月 17 日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会 長 松 田 峻一良
(公 印 省 略)

福岡県における学校健診の実施方法に関する考え方について

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、「児童生徒の健康診断時の脱衣を伴う検査における実態調査」につきましては、令和 3 年 8 月 6 日付け福岡医発第 1394 号 (地) にて貴会宛てご連絡したところです。

本調査の結果 (回答数 : 753 名、回答率 : 58%)、うち約 8 割が「着衣」で健診を実施しているという実態が分かりました。

「着衣」で実施する場合は、「心音などが聞き取りにくい」、「側弯など体の異常が分からない」などの支障に対し診察方法を工夫し、また「脱衣」で実施する場合は、脱衣の場所や健診の従事者に配慮するなど、各学校と学校医で検討し、様々な工夫を凝らした上で健診を実施しているとの回答が多い一方で、「検討を行っていない」との回答も見受けられました。

本会としましては、本結果を踏まえ、児童生徒のプライバシーの確保や正確な診察・検査を実施するためには、実施方法について各学校と学校医がよく検討した上で決定し、児童生徒や保護者の理解を得るために十分に説明することが望ましいことから、別添のとおり「着衣」及び「脱衣」で実施する場合の留意点や主な工夫例を示したリーフレットを作成いたしました。

つきましては、本リーフレットを健診の実施方法について各学校と検討する際の参考にしていただき、引き続き学校健診にご尽力いただきますよう、貴会所属の学校医への周知方よろしくお願い申し上げます。

なお、各学校に対しては、福岡県教育委員会並びに福岡県人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局私学振興課を通じて通知しておりますことを申し添えます。

【問合せ先】

福岡県医師会地域医療課 藤木・重松

TEL : 092-431-4564

FAX : 092-411-6858

福岡県における学校健診の実施方法に関する

考え方について

福岡県医師会では、学校健診の実施方法に関する実態を把握するために、県内の内科健診を実施する学校医約1,300名を対象に調査を実施しました。その結果（回答数：753名、回答率：58%）、うち約8割が「着衣」で健診を実施しているという回答でした。

■ 調査結果を受けて

健診の実施方法については、児童生徒のプライバシーの確保や正確な診察・検査の実施のために、**学校と学校医で検討した上で決定し、その内容については、児童生徒や保護者の理解を得るために十分に説明することが望ましい**ことから、以下のとおり、「着衣」及び「脱衣」で実施する場合の留意点や主な工夫例をお示しいたしますので、ご参考になさいますようお願いいたします。

なお、適正かつ円滑な健診の実施のために、健診の意義の理解促進を図ることが重要であると考えます。

■ 「着衣」で実施する場合

【 留意点 】

- **学校**は、児童生徒や保護者に対し、児童生徒のプライバシーの確保のために着衣で実施する場合の支障等を考慮した実施方法について理解を得るよう努めてください。
- **学校と学校医**は、健診を実施する際、診察の方法を工夫するなど正確な診察・検査の実施に努めてください。

【 主な工夫例 】

- 水着やエプロンを着用の上実施する
- 上半身は下着を着用し、背中側から診察する
- 診察時に心音等を聞くための聴診スペースを作れるように補助者をつける
- 下着のみ着用で実施する場合、側弯のチェックがしやすい方法としてキャミソールでなくブラジャーを着用する

■ 「脱衣」で実施する場合

【 留意点 】

- **学校**は、児童生徒や保護者に対し、正確な診察・検査の実施のために脱衣で実施する意義に関する理解を得るよう努めてください。
- **学校と学校医**は、健診を実施する際、体が周囲から見えないようにするなど児童生徒のプライバシーの確保に努めてください。

【 主な工夫例 】

- 周囲から見えない所で脱衣をする
- 脱衣後はバスタオルを肩から掛け、胸部を覆うなどし、診察時のみ看護師等がバスタオルを広げて持つようにする
- 体操服の両腕を抜いて首に巻いた状態で実施する
- 養護教諭等の立会いのもと実施する

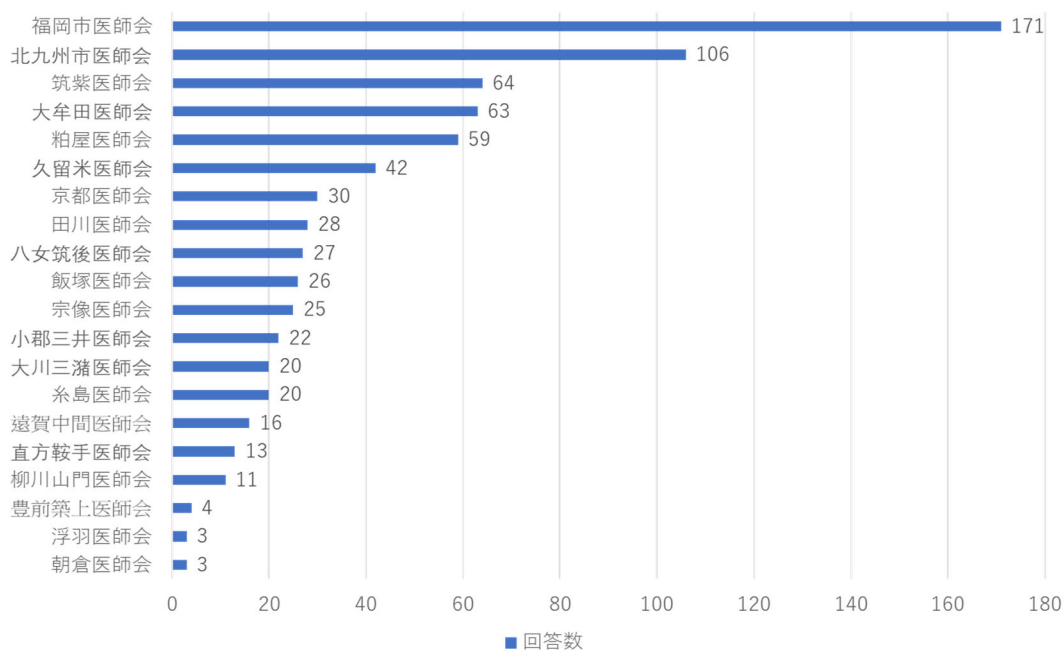
調査結果の概要については
本会 HP をご覧ください



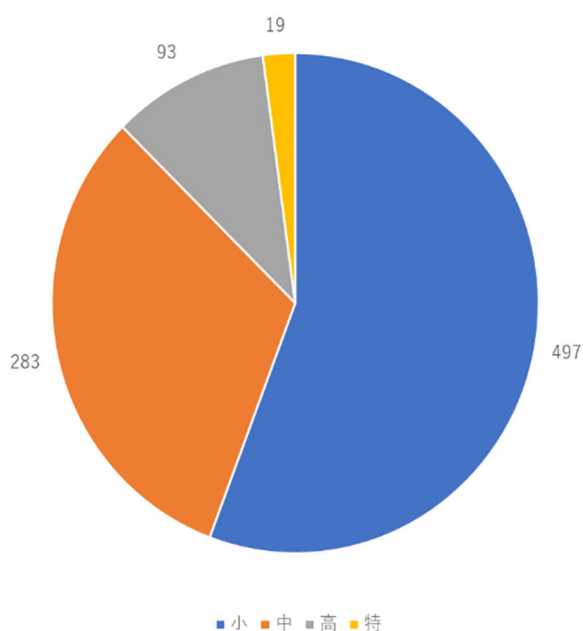
児童生徒の健康診断時の脱衣を伴う検査における実態調査 調査結果

- ◆調査対象：県内の内科健診を実施する学校医 約 1,300 名※複数校兼任あり
- ◆回 答 数：753 名（約 892 校）
- ◆回 答 率：約 58%

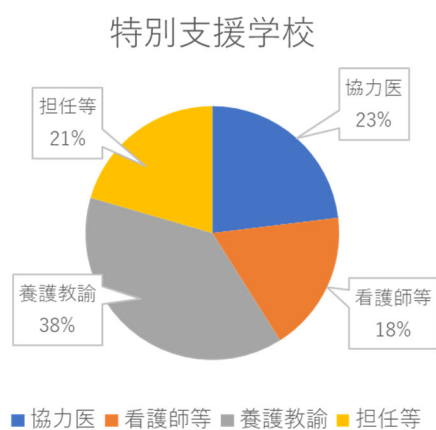
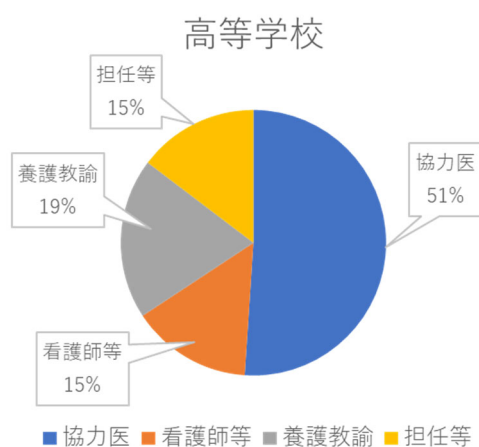
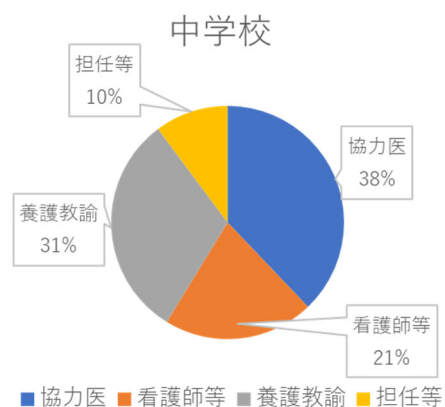
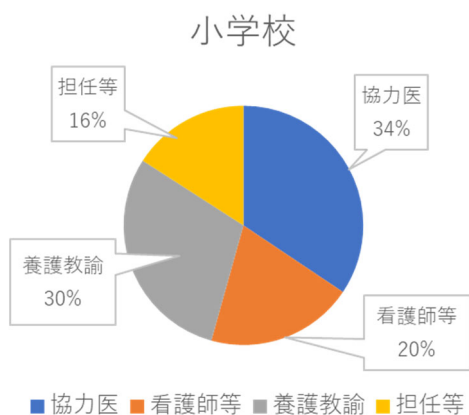
問 1 所属医師会について



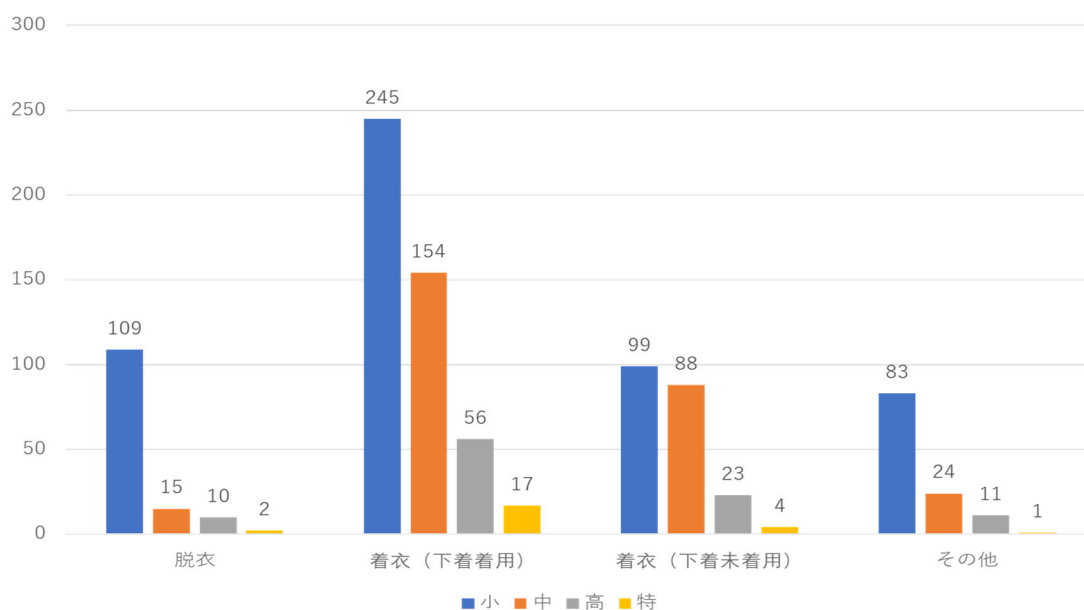
問 2 学校種別について（※複数回答）



問3 健診時の従事者について（※複数回答）



問4 健診の実施方法について（※複数回答）



学校種別内訳	脱衣	着衣（下着着用）	着衣（下着未着用）	その他
小学校	20%	46%	18%	16%
中学校	5%	55%	31%	9%
高等学校	10%	56%	23%	11%
特別支援学校	8%	71%	17%	4%

その他（自由記載）

○学年や性別によって実施方法を変える

- ・脱衣の場合は、男子のみや小学校低学年のみ、女子は小学校低学年までとしている。
- ・低学年でも脱衣を希望しない場合は着衣で行っている。
- ・男子生徒のみ上半身脱衣で実施し、待機時には体操服を着用している。

○着衣の場合の服装について

- ・通常の制服で実施している。
- ・水着（女子）で実施している。
- ・小学校高学年、中学生女子は脱衣し、エプロンを着用している。

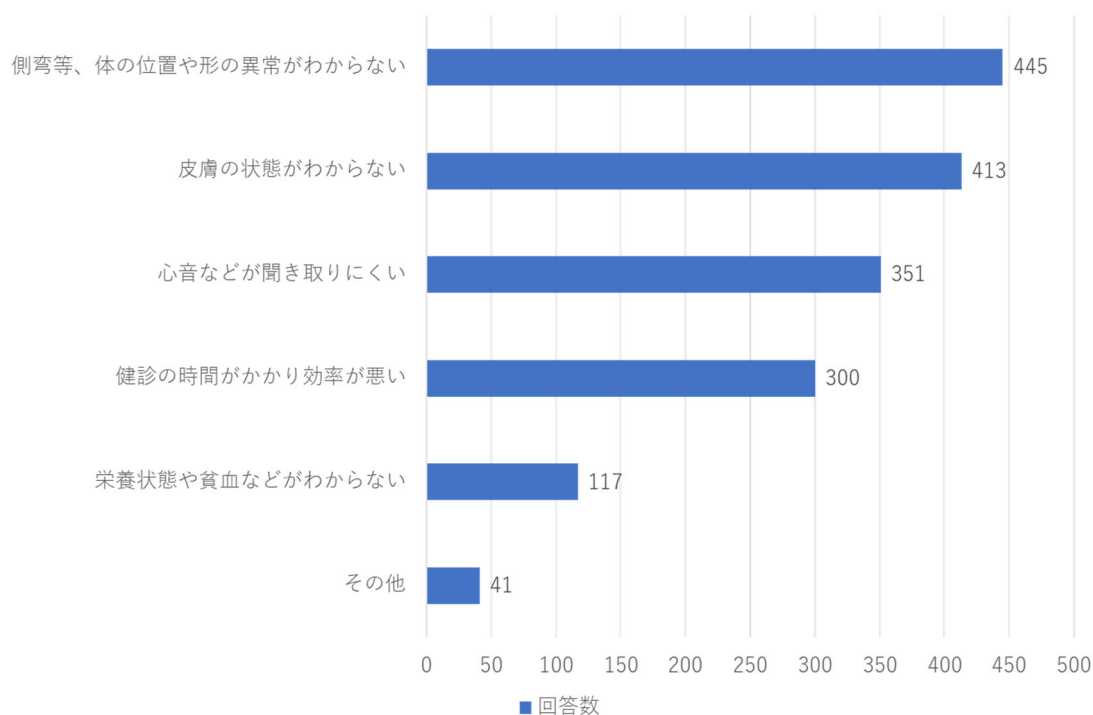
○着衣の場合の工夫について

- ・身体をしめつけている下着はゆるめて、診察時に看護師が心音等聴けるよう聴診スペースをつくる。
- ・女子は上半身下着を着用し、背中側より診察。体操服を胸に抱える様にしてもらっている。

○脱衣の場合の工夫について

- ・見えない所で脱衣し、体操服で前胸部を隠した状態で診察している。
- ・バスタオルを肩から掛けて診察時のみ体が周囲からみえないように看護師がバスタオルを広げて持ち、診察している。
- ・脱衣後バスタオルなどにて胸部を覆う。
- ・体操服の両腕を抜いて首に巻いてる状態で実施している。
- ・女子は体操服を首からひっかけて、聴診時は体操服を挙げて実施している。

問5 着衣の場合、診察や検査にどのような支障があるか（※複数回答）



その他（自由記載）

○運動器に関して

- ・時間がかかるため、側弯のチェックは保護者の問診のみで良いのではないかと考える。
- ・漏斗胸でも低学年男子は服をあげてみるが、高学年女子は見えていない。
- ・漏斗胸、鳩胸がまったく分からない。
- ・特に側弯症を見る際には、著しく障害になる。
- ・胸部の動きが確認しづらい。
- ・側弯の確認に時間がかかる。

- ・特に女子生徒の場合、側弯等の確認が着衣の為に難しく、確認のため体操服の上から肩甲骨を触らなければならないこともある。
- ・背中では服を上げて判定しているが高学年女子も含めて時間がかかり判定しにくい。
- ・健診項目の脊柱・胸郭の疾病・異常の有無が困難。

○健診の効率に関して

- ・健診実施時に補助者が必要となる。
- ・服を上げるときに、ピチピチだったり汗で張り付いていたりして時間がかかり力も要る。

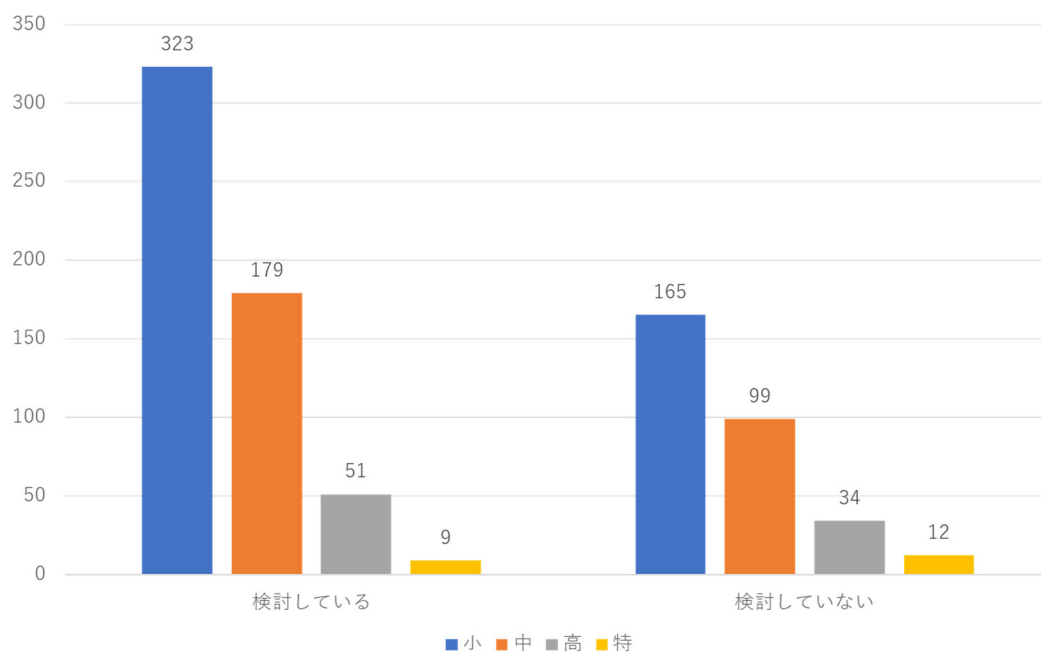
○その他

- ・手術痕があっても分からない。
- ・虐待の傷などが分からない。
- ・事前に服装(ブラジャー+体操着)の指示をお願いしているが2~3割は守れていない。
- ・正しい手順で診察をしていないと受け取られる場合がある。
- ・背部聴診時、時に女子で下着と重なることがある。

○工夫点

- ・必要時には養護教諭等立会いのもと、衣服をあげて視診・聴診している。
- ・着衣のまま見える範囲、開ける範囲で拾える限りの所見をとって検診としている。(脱衣までさせて健診で異常を見つけるべきか賛否が分かれる印象。)
- ・背部よりの診察は着衣を上げて背骨の変形のない事を確認している。
- ・下着のみの場合キャミソールよりブラジャーの方が側弯のチェックがしやすい。
- ・おかしいなと思ったら看護師同席のもと、めくって聴診しなおしている。

問6 実施方法（脱衣・着衣）について事前に学校・養護教諭と検討しているか（※複数回答）

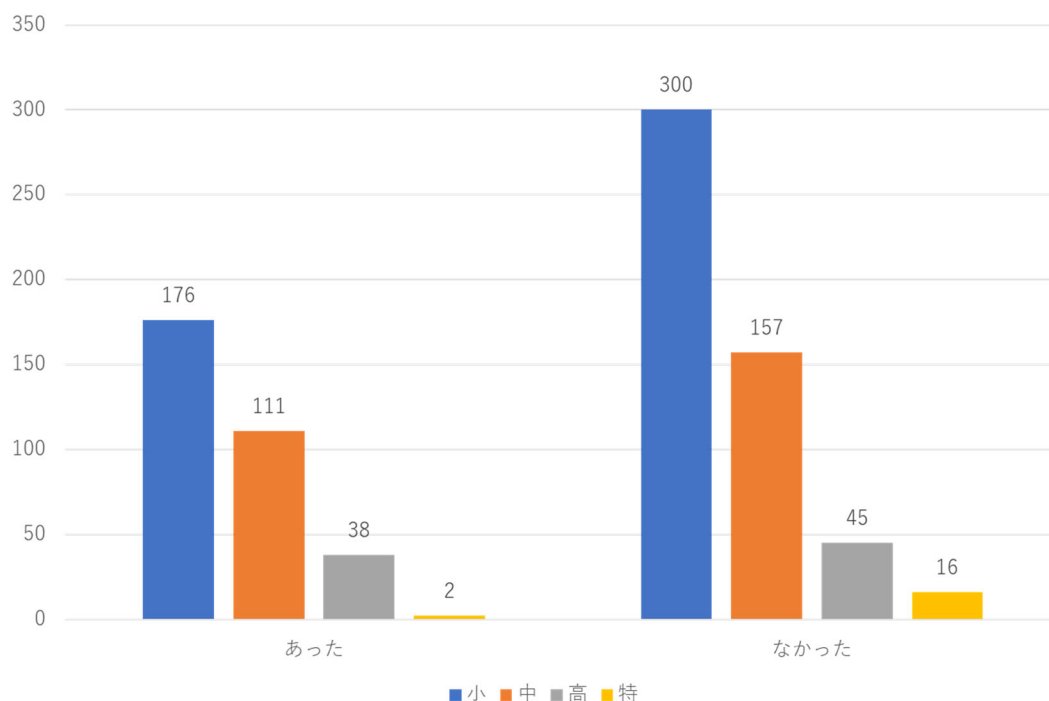


学校種別内訳	検討している	検討していない
小学校	66%	34%
中学校	64%	36%
高等学校	60%	40%
特別支援学校	43%	57%

その他の意見

- ・ 検討しているが答えが出ない。
- ・ 学校から実施方法について指示がある。
- ・ 脱衣に決定しているため、毎年の検討はしていない。

問7 学校から着衣で健診を実施してほしい旨要請があったか（※複数回答）



学校種別内訳	あった	なかった
小学校	37%	63%
中学校	41%	59%
高等学校	46%	54%
特別支援学校	11%	89%

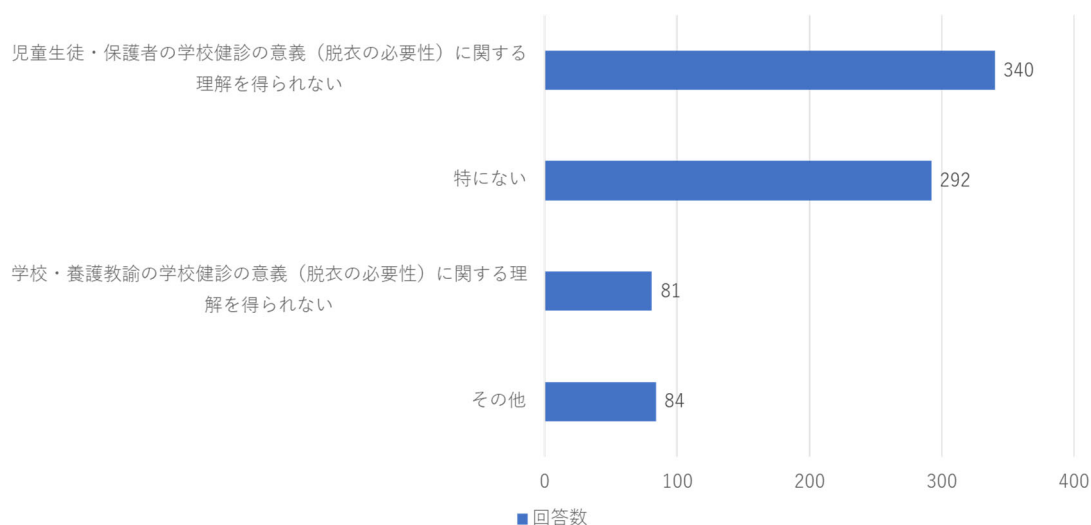
その他の意見（「要請があった」と回答した方）

- ・以前児童の希望として話があったが、支障がある為、養護教諭と話し合い脱衣ですることとなった。
- ・中学校女子は着衣のままの要望があったが拒否し、以降は男子のみ担当している。
- ・教育委員会の方からあり、15 年位前から中学校男子は脱衣、女子は体操服着用（下着未着用）で実施している。
- ・男子児童本人の希望でという要請があった。

その他の意見（「要請がなかった」と回答した方）

- ・学校医から着衣の申し入れをした。
- ・もともと着衣で実施している。
- ・相談はあった。
- ・LGBT の児童生徒がいるという話を聞いた。

問8 脱衣を伴う健診における課題について（※複数回答）



その他（自由記載）

○児童生徒・保護者の理解を得られない

- ・個人的には、女子よりも男子の方が隠したがる傾向(特に肥満児の子)にある。
- ・脱衣するように指示されていても、直前まで上着（体操服やブラウス）を着ているので脱衣に時間がかかっている。診察中も、次の子がついた際の隙間からのぞいたりして、ソワソワして時間がかかる。
- ・プライバシーの確保が難しい。
- ・特に女子に関してはコンプライアンス（セクハラ等）の問題有り。
- ・高校女子に脱衣での健診は難しい。
- ・高学年になると恥ずかしがるため行いにくい。
- ・男子は脱衣でもいいと思うがあまりにも恥ずかしがりすぎる。
- ・中学女子は着衣が一般常識と思っている。
- ・逆に恥ずかしがって時間がかかる。
- ・脱衣へのクレームがあったと聞いており、着衣での対応を考えている。
- ・以前は脱衣で行っていたが、家族からの不満が出ないように着衣にした。
- ・特別支援学校の生徒たちのストレスを考えると難しいと思われる。

○学校・養護教諭の理解を得られない

- ・学校側が学生に対し脱衣に対して神経質になっている（時代的に仕方がない）。
- ・本人の意向確認が行われているか不明。
- ・実施方法について、学校医に選択肢はなし。

○その他

- ・ 宗教的理由から。
- ・ 本来は脱衣で行った方が見落としが少ないと教育を受けた。
- ・ 誤診の可能性が高まる。
- ・ 個別の診察スペース確保の困難。
- ・ 着衣では側弯検査では目視できず肩甲骨の位置をさわって判断しなければならない。

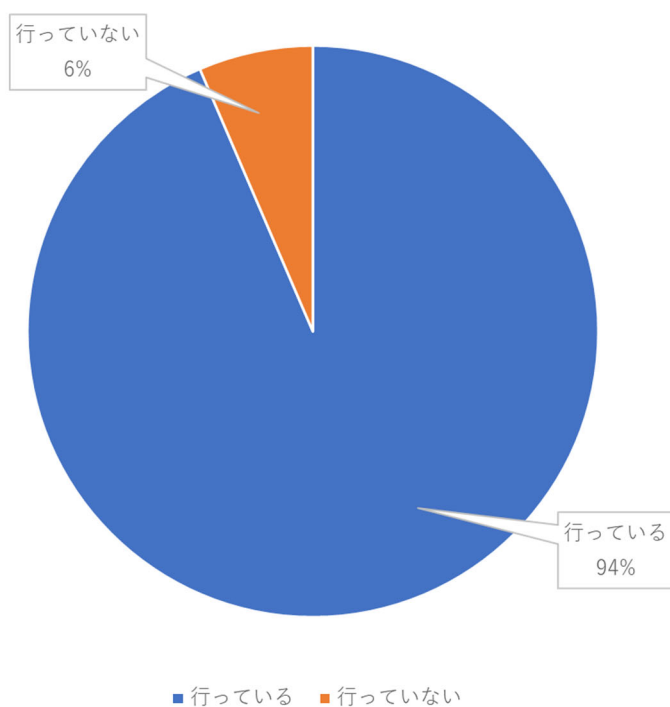
○特にない

- ・ 体操服着衣で問題なく行っている。
- ・ 小学校高学年、中学生の恥ずかしい気持ちがある子に脱衣を無理にさせる必要はない。
- ・ 医師からみても脱衣で受ける意義が少ないため、着衣で受けるよう提案。
- ・ 新任の中学の先生より、男子生徒を含めて着衣のままでの健診依頼があったが、校長先生を含めた３者の話し合いで、男子生徒については脱衣での健診の理解をいただいた。

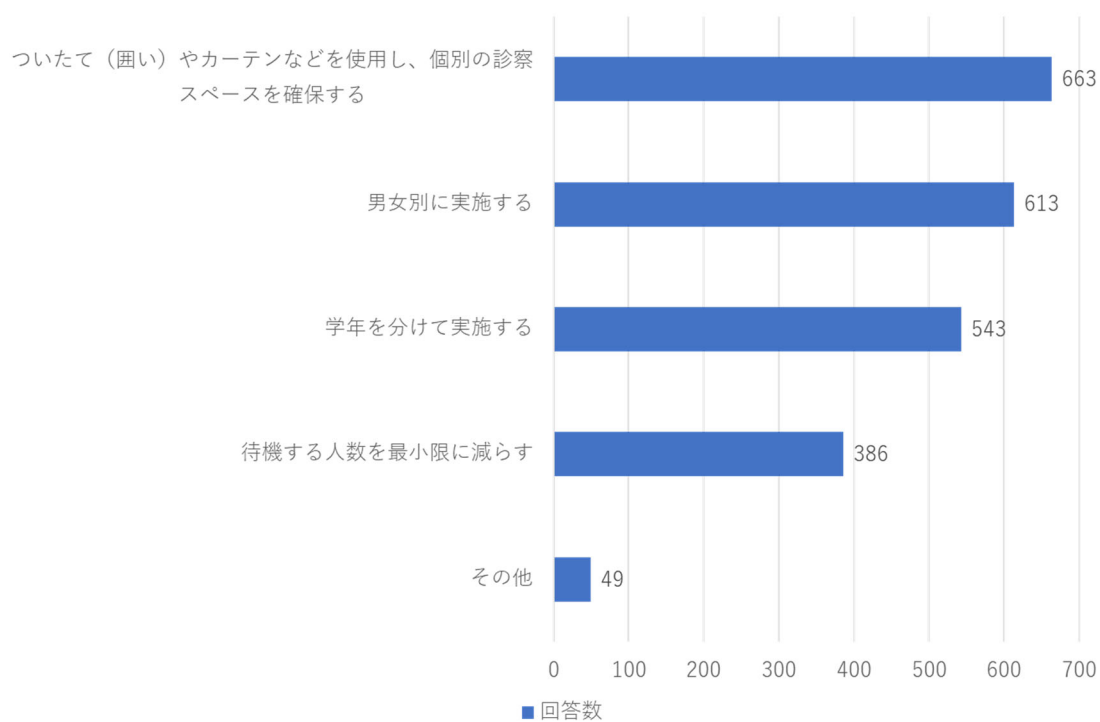
○工夫点

- ・ 問題のある児童に関しては、家族の事前アンケート、担任教師、養護教諭の方でピックアップされており、入念に健診を行っている。
- ・ 実施時に補助者が必要で、養護教諭が協力して下さった。

問9 健診実施における工夫について



「行っている」場合、その内容について（※複数回答）



その他（自由記載）

○従事者について

- ・必ず慣れた看護師が聴診時、服を適切に上げる。
- ・養護教諭付き添いのもと、女生徒に説明してブラジャーを適宜ずらして心音を聞いている。
- ・補助者を1名つけている。
- ・養護教諭が適切に誘導してくれる。
- ・女性教員が必ずつく(男性教員は担任でもつかないようにする)。
- ・女子は他のクラスメイトに見られるのを嫌がるので複数のついたてを工夫して設置している養護の先生との連行が大事。女性の教師の補助があるとよりスムーズに進める。
- ・私は女医なので高校生は女子のみ担当している。同様に小学生女子も高学年は私が担当する様配慮している。
- ・必ず女性看護師、保健師が帯同している。
- ・女子の場合には女性教諭に介添を依頼している。また脱衣および着衣の着替え室を診察室前後に配置することにより個人のプライバシーを配慮している。
- ・小学校4年生以上は男女別で同性の医師、教師が担当している。

○実施場所について

- ・脱衣場所や着衣場所を個々に用意している。

○実施方法について

- ・個人情報が他の生徒、児童に漏れないように努めている。
- ・入場は一人のみ。
- ・クラスの順番を工夫している。
- ・健診を受ける児童一人ずつ入室するようにしている。
- ・傷がある火傷やケロイドがある子は他の子に見られないようにしている。

（脱衣で実施する場合）

- ・バスタオルを使用し診察時にバスタオルを開け、医師しか見えないようにしている。
- ・簡易な前掛けで前胸部を覆うようにしている。(高学年児のみ)
- ・診察するまで着衣+タオルにてカバーしている。
- ・聴診直前に脱衣している。
- ・女子は前をタオルで隠している。
- ・女兒はてるてる坊主のように肩からバスタオルを着用している。
- ・記録担当教師にも胸が見えないよう、医師もなるべく見ないよう配慮。

(着衣で実施する場合)

- ・体操着を浮かせてその下に聴診器をおいている。
- ・男子は着衣をめくって聴診、女子は着衣のまま実施している。
- ・女子は上着を首にかけていただき視診と聴診を行っている。
- ・高学年女兒のみ胸部をかくす腹掛けを着て診察。
- ・女子のみですが、衝立で隠された診察スペースに入って側彎症の診察のときのみ上の体操着(下着は着用のまま)を最低限外してもらっている。
- ・女子は胸の上ボタン一つを外して首下から聴診。
- ・体操服を上げて診察しやすいように工夫している。

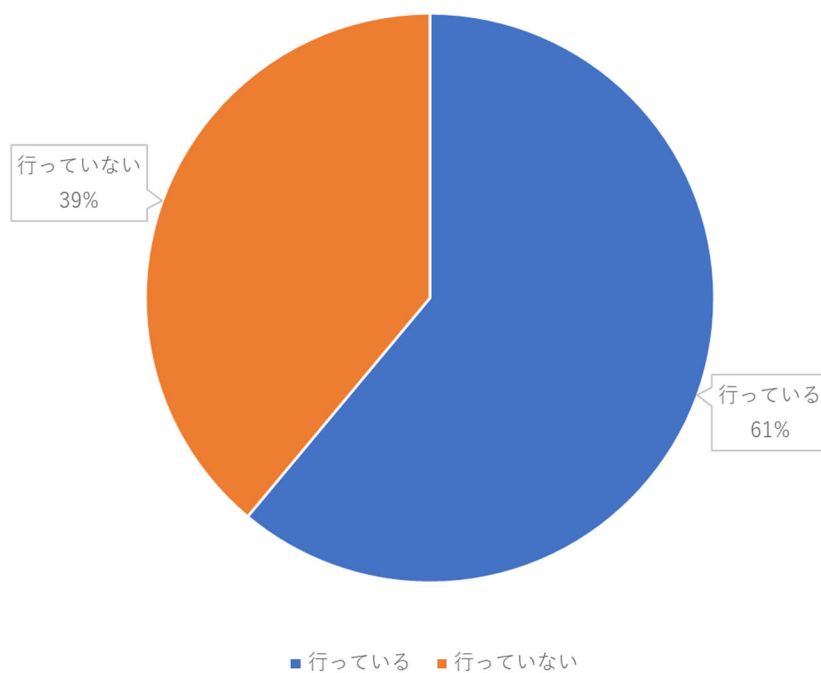
○学校との連携について

- ・養護教諭が色々考えてくれてて自分が主体的に行っているわけではない。
- ・健診を始める前に生徒に直接何のために脱衣するか意義・方法を説明し協力を呼び掛けている。
- ・養護教諭の異動があってもスムーズに引き継げるよう、健診の部屋のレイアウトを写真で記録してもらおう。側彎の診察については事前に担任から説明してもらおう。
- ・事前に生徒さんの注意事項を養護の先生に伺う。

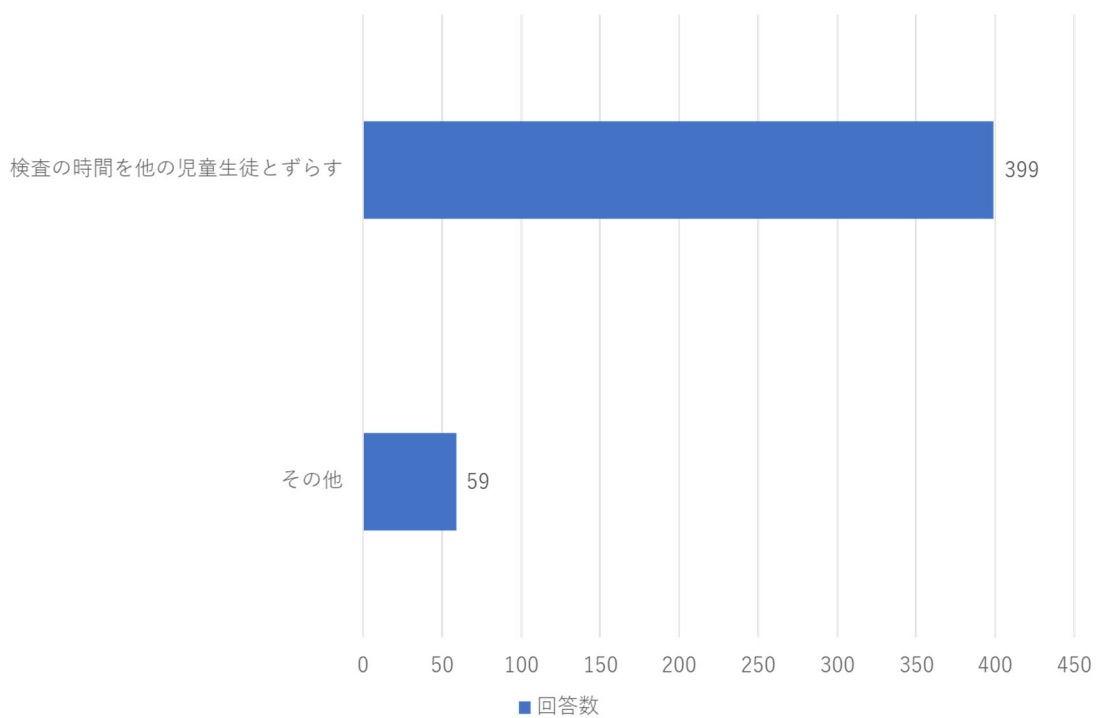
○その他

- ・男女共今後は着衣での健診が望ましいと考える。
- ・失礼にならないよう配慮しているつもり。

問 10 特に配慮が必要な児童生徒に対する個別対応について



「行っている」場合、その内容について



その他（自由記載）

○従事者について

- ・慣れている先生や親同席で行う。
- ・担任の先生に傍についてもらう。
- ・高学年の女子生徒は女医に担当してもらっている。
- ・支援の先生が付いている。
- ・教師と一緒に最後に健診している。
- ・女性医師による診察を行っている。

○実施場所について

- ・診察スペースに患児以外の子は入れないようにしている。
- ・当院の外来で実施する。
- ・別室にて(本人が慣れている部屋)。
- ・別室希望時に対応している。
- ・場所に配慮している。保健室でなく、個別に本人の教室内等。

○実施時間について

- ・気になる児童に関しては通常診療の最初に行っている。
- ・学年別の最後に診察している。
- ・発達障害などは本人ができそうなタイミングでできればしている。
- ・本人の納得がいくタイミングで行えるよう受診機会を複数回設定する。
- ・可能な日に実施している。
- ・前後の児童との時間を開けている。
- ・充分時間をかけて前後の生徒にわからないように行う。

○実施方法について

- ・養護教諭からの問診のみとする。
- ・聴診で異常を疑い、必要時のみ脱衣を行っている。
- ・着衣のまま診ている。
- ・上半身の下着の着用を認めている。
- ・個別に実施し、仕切りと距離で個別化している。
- ・出来るだけ素肌を露出しないように配慮している。
- ・個別で健診している。
- ・皮ふの熱傷など異常のある生徒は着衣にて行っている。

- ・時間をかけて診察している。
- ・囲いかカーテンかくし等。
- ・順番をずらす。
- ・不安が強い人に部屋で様子を見学してもらった。
- ・発達障害児で脱衣をどうしても嫌がる子は着衣のまま行っている。

○学校との連携について

- ・事前に学校保健室の担当が対応している。
- ・事前に養護教諭から連絡あり。
- ・養護先生より診察直前にチャートの提示あり。
- ・養護教諭・担任と話し合いの上でやり方を決めている。
- ・LGBT は男女の境目にするなど、養護教諭と事前相談。
- ・肥満児の指示は本人の前では行わず、養護の先生とは隠語をつかう等の工夫している。
- ・前もって説明を受ける。児童の前では記入内容(記録)伝えず退室後に伝える。
- ・学校側が自由に配慮している。
- ・学校側に一任している。

○その他

- ・判断を現場任せにするのではなく県・市が明確に指針を示すべきである。
- ・ケースバイケース。
- ・要望があれば対応している。
- ・多動児や不登校の子などに対応している。
- ・最近 LGBT の学童あり。
- ・嫌がることを無理にしない。
- ・減多にないが相談があれば対応している。
- ・肥満児を別にするか迷っている。
- ・脱衣を嫌がる場合（自閉症スペクトラム症など）は着衣のままで行ったり、スムーズに行く方法を模索している。
- ・性同一性障害の子は数は多くないのでこちらで指示せず、本人の希望に合わせている。
- ・本年の健診で本人、および、母親より診察時着衣を上げすぎ（本人と母親の希望は、上げるべきではないとのこと）との抗議があり、来年よりかかりつけ医での診察で対応するとの保護者、本人、学校の3者で合意されたとの報告を受けている。

○行っていない

- ・発達障害等のある児童生徒に対しても基本的と同様に行っている。
- ・相談されたことがない。
- ・養護教諭が考えているので私には断定できない。
- ・そこまでの対応が必要な子がいなかった。